

E—25 古代製塩古代土器の研究  
—特に東北地方海水塩製造過程—

宮城学院女大学芸 加藤 孝

1. 塩は人類の生存に必要な資源である。したがって集団の生活においては、最も大切な要件となる。本邦食生活史を顧みるに当たって、その製造過程は、決して安易に考えるべきではない。まして、海水塩製造の期間は、農耕製産労働の時期と重複するので、古代においては分業によって、海水塩の製造は行なわれたものと考えるのが妥当である。文献に乏しい古代東北の海水塩製造の過程を究明するのが、本研究の目的であって、食物史研究に資したいものである。

2. 製塩遺構と考えられる遺跡の分布調査を実施し、本研究に関りのある遺跡を考古学上発掘を行ない、遺跡の立地と遺物の整理上の関連において、その実態の把握につとめたのである。このような方法によれば、海水塩製造の窯址と、さらに製塩に係りのある土器が検出せられ、時期によって、多少の消長、発展の過程をも考定することが可能である。

3. 古代において、鉄製塩釜開発以前においては、製塩土器を使用して、海水製塩を実施したことが明白である。その製塩土器とは、従来挙げられている土師器、須恵器とは全く類を異にした工業用品であって消耗率の高いものであった。なお本研究は、昭和41、42年度文部省科学研究費による研究の一部が含まれている。